

NETWORK

2011年4月

第60号

アメリカ穀物協会ニュースレター

INDEX

はじめに

● 農業需給予測

● ペータグルカン豊富な
大麦食品の紹介

● ホワイトソルガムを
原料とする犬用
ビスケットが新発売

● 「米国コーンアウト
ルック・シンポジウム
2011」を開催

● スティーヴ・ヴァンザント
氏の講演内容

● 2010年12月
DDGSセミナー

● DDGSユーザーハンド
ブックが出来ました

● DDGSに関するDVD
が出来ました

● 協会の活動紹介

コーンアウトルック・シンポジウムの報告と DDGSセミナー

はじめに

「このたびの大災害に襲われた日本の穀物関係者、スタッフ、すべての人々に対し、心からお見舞いを申し上げます」。アメリカ穀物協会ワシントンD.C.本部理事長兼CEOトーマス・ドールは、3月11日に発表された同協会リリースの中でこのように述べています。「協会は50年以上に亘る農業分野における日本の人々とのパートナーシップを重視しており、その復旧・復興に関してもこれまでの関係同様に、皆様のニーズに協力・支援をもって応えてゆく所存です。」

日頃から東北、北関東の飼料・畜産関係の方々にお世話になっている日本事務所としてもスタッフ一同、大震災とそれに伴った津波による甚大な被害を受けた地域の方々から心からお見舞いを申し上げます。

日本事務所は、これまで何度も飼料・畜産関係の活動で地元の方々にお世話になりながらセミナーを開催したり、米国から来日した穀物生産者らと共にサイロや飼料製造施設、あるいは畜産農場を訪問させていただきました。3月11日には、鹿島、八戸、石巻などの海岸沿いの映像が報道番組で映し出される都度ショックをうけざるを得ませんでした。被害を受けられた地域の皆様が一日でも早く安心できる生活を取り戻されることと、地域の産業の復旧・復興を心から望み、支援してゆく所存です。

—農務省農業需給予測—

3月10日発表の農務省世界農業需給予測は、2010/11米国飼料穀物生産高を前月発表とほぼ同じと発表した。トウモロコシ、ソルガム、オーツ麦の供給、使用量および期末在庫の数字に変化はなかった。大麦輸出予測はこれまでの輸出販売が振るわないことから200万ブッシェル下げて予測。トウモロコシの年間平均農場価格は、前月より予測値幅を縮めてブッシェル当り\$5.15~\$6.65と予測した。ソルガムと大麦の農場価格予測は若干下がり、オーツ麦は若干上がった。

世界の粗粒穀物供給量は、期頭在庫量が低かったこととその後トウモロコシ、ソルガム、オーツ麦の生産量予測が低かったことから、前月予測より250万トン下げて予測。世界のトウモロコシ期頭在庫は、2009/10年度でのブラジルの輸出とインドでの飼料用使用が増えたことから60万メートルトン下げて予測した。

世界のトウモロコシ生産高は、メキシコとインドでの生産が低く、それはブラジルでの生産増加を一部相殺しても世界全体として50万メートルトン下げて予測した。ブラジルでの2010/11年度トウモロコシ生産は200万トン前月より高く予測されたが、作付面積が増えたこと、夏作の単収が上がったこと、更に政府が保険とローンの対象となる播種日時を延長したことなどで冬作面積が増えるのではないかと、との予測を反映したものである。メキシコのトウモロコシ生産が200万トン下げて予測されたのは、2月の寒気が北西部の冬トウモロコシ生産地域で広範囲に亘って被害をもたらしたためである。その地域は例年だと国のトウモロコシ生産高の4分の1を占める。再植で多少は被害の軽減が期待されるものの、これから夏へ掛けての高温は限られた成長期として重要であるため、再植作物がその時期を逃さず成長できるかが重要となる。

世界の2010/11年度ソルガムと大麦生産はそれぞれ50万トン、オーツ麦は30万トン下げて予測された。インドでのソルガム生産が減った分は、豪州での増加を相殺しても余りある量と予測された。

(詳細は：<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/latest.pdf>)



2010年12月10日農務省発表	米国トウモロコシ需給予測			米国ソルガム需給予測			米国大麦需給予測		
	2008/09	2009/10推定	2010/11予測	2008/09	2009/10推定	2010/11予測	2008/09	2009/10推定	2010/11予測
作付面積(百万エーカー)	86.0	86.4	88.2	8.3	6.6	5.4	4.2	3.6	2.9
収穫面積(百万エーカー)	78.6	79.5	81.4	7.3	5.5	4.8	3.8	3.1	2.5
単収(ブッシェル/エーカー)	153.9	164.7	152.8	65.0	69.4	71.8	63.6	73.0	73.1
期頭在庫(百万ブッシェル)	1,624	1,673	1,708	53	55	41	68	89	115
生産高(百万ブッシェル)	12,092	13,092	12,447	472	383	345	240	227	180
輸入(百万ブッシェル)	14	8	20	0	0	0	29	17	10
国内使用量(百万ブッシェル)	10,207	11,079	11,550	328	230	200	236	212	205
内燃料エタノール用(百万ブッシェル)	3,709	4,568	4,950	—	—	—	—	—	—
輸出(百万ブッシェル)	1,849	1,987	1,950	143	166	150	13	6	8
期末在庫(百万ブッシェル)	1,673	1,708	675	55	41	37	89	115	93
平均農場価格(\$/ブッシェル)	4.06	3.55	5.15-5.65	3.20	3.22	5.15-5.65	5.37	4.66	3.70-3.90

トウモロコシとグレイン・ソルガムのマーケット年は9-8月、大麦は6-5月。
トウモロコシとソルガムは1ブッシェル=0.025401メートルトン、大麦は1ブッシェル=0.021772メートルトン、1ヘクタール=2.4710エーカー

ベータグルカン豊富な大麦食品の紹介



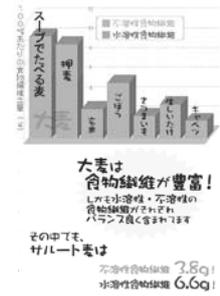
豊橋糧食工業株式会社「丸麦」紹介：

<http://item.rakuten.co.jp/ryoshokushop/salute003/>



株式会社はくばく「スープで食べる麦」紹介：

<http://item.rakuten.co.jp/hakubaku/cook/>



本誌 (NETWORK59号) でも紹介したように、米国では2006年にFDA (米国食品医薬品局) が大麦および大麦を含む食品に対し、冠状疾患リスク低減に関するヘルスクレーム (健康強調表示) を認可して以来、米国内での大麦食品の需要が高まっている。シリアルやクラッカー、パスタ、ドリンクなど、様々な新製品が発売されており、一般的なスーパーマーケットや食料品店には、朝食用シリアル、缶詰スープ、栄養バーなどの大麦食品が並んでいる。そうした中、大麦を伝統的に国民の食生活に組み込んでいる日本で、米国産のベータ・グルカン豊富な大麦を原料とする製品が販売されている。ここにご紹介するのは、その一部である。

アメリカ穀物協会は、これまでも日本の穀物関係者らと協力して大麦の健康メリットをより多くの人々に思い出していただくための活動を行ってきた。そうして気付いたのは、大麦を日頃食生活に組み込んでおられる方が見るからに健康であること、また弊協会のスタッフ自ら料理を試して食べてみて、その料理のし易さ、美味しさ、健康にも役立つことを体験している。今後も日本の業界関係者、加工会社、製品の開発に携わられる方々と協力しながら、この健康的で美味しい食材を使う人々の輪を更に広げてゆきたい。



料理研究家 浜内先生



米国で人気の大麦健康食品



大麦を使ったスープ

アメリカ穀物協会 大麦レシピ紹介：<http://grainsjp.org/recipes/>



米国産ホワイトソルガムを主原料とした アレルギー対応 犬用ビスケット2種が新発売



2010年12月1日、現代製薬株式会社より業界初のアレルギー対応犬用おやつ「ソルビッツ Sorbitz」が発売された。主原料には米国産ホワイトソルガムを使用し、愛玩犬の間で時折問題とされる食物アレルギー9項目（牛肉、乳、小麦、卵、鶏肉、大豆、トウモロコシ、米、羊肉）を除去している。

また、2011年3月1日には、ソルビッツに砂糖を使用せず、噛むことで歯垢の蓄積を軽減する歯みがき効果をプラスした、アレルギー対応&デンタルケアサポート用のビスケット、「ソルビッツデンタル」が発売になった。アレルギーで悩んでいる愛玩犬はもちろん、アレルギーのない犬にも安心して与えられるおやつとなっている。

現在、ネットショップGストア、その他の大手ネットショップ、ホームセンター等で好評発売中！



ネットショップ Gストア

<http://gstore.jp/>

アメリカ穀物協会 「米国コーンアウトルック・シンポジウム2011」を開催

アメリカ穀物協会は、2月14及び15日に夫々大阪と東京にて標記シンポジウムを開催した。日本市場にて米国トウモロコシを利用している業界関係者ら250名の出席者とともに、ここ数年の米国トウモロコシ生産及び品質のレビュー、2011年産の作付予測、最近の需給状況、技術革新がもたらし得る更なる生産増加と、引き続き重要性を増す供給側と利用者側とのコミュニケーション、双方のより長期展望に立ったコミットメントのための方策など、さまざまなトピックについて講演および質疑応答による話し合いが行われた。更に、米国におけるトウモロコシ食品に関するトレンド情報として、消費者の健康志向の高まりとホールグレイン（全粒粉製品）市場が伸びている傾向、全粒粉の保存可能期間を延長できる製粉方法など、技術的な説明もなされた。

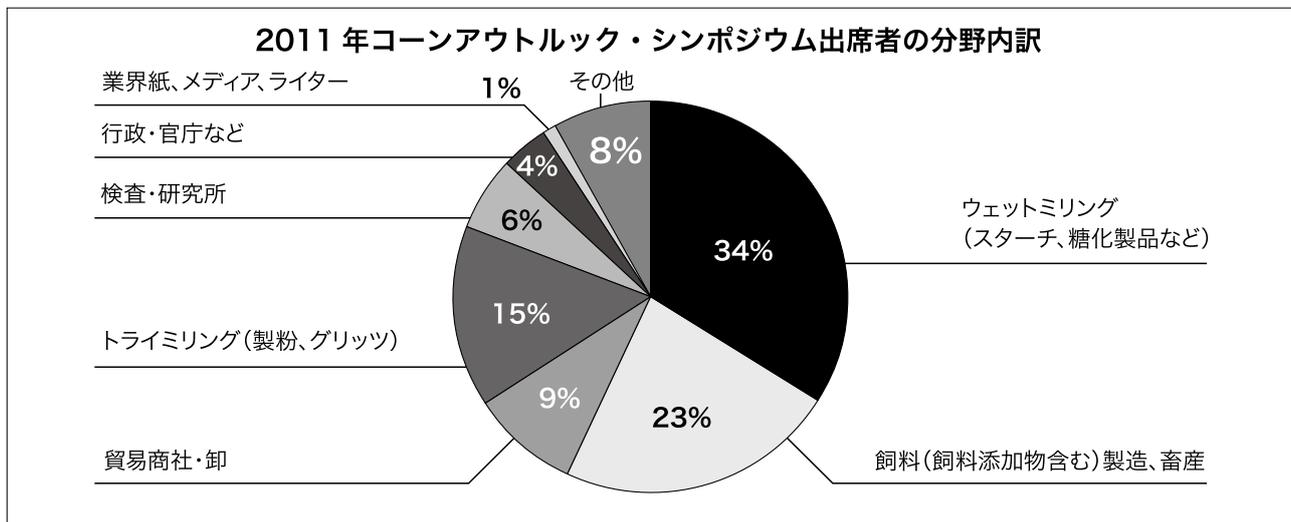


また、講演者らはシンポジウムの後、静岡県清水市、株式会社サニーメイズを訪問し、トウモロコシ食用ドライミリング・メーカーの設備、高度な技術と製品開発に関する説明を受けた。またコーンスナックの試食や原料トウモロコシの品質に関するニーズについても話し合われた。

アメリカ穀物協会は、今後の協会の活動指針や、次回開催するシンポジウムのトピックや講演者を検討する際に参考にするため、標記シンポジウム会場にてアンケート用紙を配り、無記名可ということで記入していただき回収した。

その結果についていくつかのポイントを次にご紹介する。出席者から回収されたのは184枚のアンケート用紙であった。記入してくださった方々にはこの場を借りて御礼申し上げます。

[1] 回答した出席者の分野



[2] 御社が扱っている・使っているコーンの量は、ここ数年増えていますか、減っていますか？

回答者の見方 (回答者97名)	過去3回のシンポジウムでの結果		
	2009年	2010年	2011年
減っている	36%	44%	52%
変わらない	34%	34%	28%
増えている	30%	22%	20%
合計	100%	100%	100%

[3] 10名以上の出席者が、今後の同シンポジウムで次のトピックを希望している。

- トウモロコシ需給
- 非遺伝子組み換えと、遺伝子組み換えトウモロコシの作付面積
- エタノール産業の動向・政策など

[4] 10名以上の出席者が、今回のシンポジウムで特に有意義だった点は次のトピックであると回答している。

- 詳しい需給分析
- 生産者（農家）の農業栽培などに関する説明
- 米国農務省が2010年産トウモロコシの単収を収穫期近くになってから下方修正した理由、予測の仕方などに関する解説
- 中国の穀物需要見通し

〈 議 題 〉

開会の挨拶

東京会場：米国大使館農務部農産品貿易事務所所長
スティーブ・シュニッツラー氏

大阪会場：アメリカ穀物協会日本事務所代表
浜本 哲朗

米国トウモロコシの生産・需給・流通、 作付見通し

経済アナリスト
ロス・コーヴス氏 (Mr. Ross Korves)

トウモロコシの生産現場から、 農家の見方

オハイオ州 トウモロコシ生産者
スティーヴ・ヴァンザント氏 (Mr. Steve Vanzant)

中国のトウモロコシ事情

アメリカ穀物協会役員、前会長
リック・フルース氏 (Mr. Rick Fruth)

食用トウモロコシ (IPコーン) と ドライミリング食品加工の展望

フリトレ社 製品開発主任研究員
ホルヘ・モラレス博士 (Dr. Jorge Morales)
(ロス・コーヴス氏)



ロス・コーヴス氏

「米国トウモロコシの生産・需給およびその他の市場要素」と題して、世界の小麦、米、大豆、トウモロコシの生産量と使用量の過去30年に亘る傾向を説明し、トウモロコシについては、とりわけUSDA(米国農務省)による2010年産の単収 (yield) 予測が、収穫時期になって数度下方修正された理由を解析・説明した。エタノール製造用トウモロコシ使用量については、ブレンダーに対する税控除および輸入関税が2011年末まで延長された事と、政府がコミットメントしたガソリンへのエタノール混合基準、またそれに絡んでE15 (エタノールを15%混ぜたガソリン)を2011年以降製造車に使用することが認可されたが、その実践に関しては混乱している、などあらゆる要素を検証しながら「2015年に向かって、エタノールの生産の伸び率は減少するだろう」と述べた。

〈 講 演 要 旨 〉

「米国トウモロコシの生産・需給およびその他の市場要素」と題して、世界の小麦、米、大豆、トウモロコシの生産量と使用量の

トウモロコシ作付面積と、作付へ向けた農家の準備が十分であることから、天候が順調であれば2011年産トウモロコシは品質、収率共に期待できると述べた。単収予測には、エーカー当たりの穂数と、穂重の成長・成熟を正確に見極めることが重要であるとして、どのような天候やダメージがそれらに影響する要素となり得るかを説明した。



スティーヴ・ヴァンザント氏

スティーヴ・ヴァンザント氏は、最初に2010年に続き再び日本を訪れることを大変光栄に思うと感謝を述べた。2009年産トウモロコシは、9~10月の過剰な降雨量から、大規模な機械的乾燥が必要となり、品質が低下した。2010年産は、ほぼすべて機械的乾燥を必要とせず、品質は前年度に比べて大幅に改善したが単収が低下した。前年の収穫作業の遅れにより、通常秋に行われる準備作業がほとんど出来なかったことが理由の一つである。2011年作付準備については、多くの生産者はすでに施肥を含め農場準備をかなり進めている。水はけ改善の土管整備を含め様々な投入材料の購入も終了している。

今年の作付計画については、全体で1,100ヘクタールある農場のうち、約800ヘクタールにGMトウモロコシ、300ヘクタールは種子用大豆を作付する予定であると説明した。農場経営の他にリスク管理スペシャリストとしての職務もこなしている。農業経営がやり甲斐がある仕事である一方、不安定な穀物市場、誰にもコントロールできない天候、予見不能な世界情勢の中で、収穫保険やリスク管理ソリューションを提供する仕事も日々興味深いものとなっている、と述べた。2009年産トウモロコシの品質が農家にとってもトラウマとなっている一方、2010年産新穀が40年以上農業経験を持つ生産者としても最高クラスのものとして評価出来る、と喜んだ。更に客観的データとして地元のエタノール工場が確認した2009年と2010年の品質差を紹介した。

(詳細は5ページ参照)



リック・フルース氏

常に注目され毎日のように新しいニュースを生んでいる中国に関して、リック・フルース氏は「中国トウモロコシの展望」と題して講演を行った。中国のGDP、人口などの市場成長のダイナミクス、世界農業の中での地位、今後の畜産業成長、そしてトウモロコシの消費と生産の見通しについて説明し、政策転換や在庫量の不確実性にも触れた。そして中国を含めた世界のトウモロコシ市場に対して、米国側の市場関連情報の質と即時性の改善、輸出市場を満たす生産性の改善、輸出の門戸を閉ざさぬこと、新技術の採用、そしてトウモロコシを輸送するインフラの維持について、コミットメントを表明して講演を締め括った。



ホルヘ・モラレス博士

ホルヘ・モラレス博士は、講演原稿の準備に当たって日本におけるトウモロコシの食用ドライミリング生産が10年以上前から縮小傾向にあることを認識した上で、自分が日々働いている米国フード・インダストリーの動向と博士の経験、また出身地である中南米諸国で人気のトウモロコシ食品を紹介しながら、可能な限り日本のドライミリ

ング業界に役立つ提案ができるよう努めてくれた。業界関係者からの質問に対しても詳しく説明し、今後も必要な協力をしてゆきたいと述べた。

米国では、FDA（食品医薬局）による食生活ガイドラインの中で、消費者は穀物の少なくとも半分を全粒穀物で摂取することが勧められている。それは米国民の主な死亡原因である心臓疾患、脳卒中、腸癌のリスクを軽減し、糖尿病や肥満の治療・管理に有効であるとされている。モラレス博士は講演の中で、「全粒」の定義、保存期間を長期化できる製粉方法などを説明した。最後には、ベネズエラやコロンビアで主食として食されている「アレパス」という細挽きコーンフラワーを水でこねて焼いた食品を、日本人の嗜好性に合うのではないかと紹介してくれた。最近米国でも人気がある食品だそうだ。



会場で展示されたアレパス、最近ニューヨークなどで人気を博しているそうだ。繊細な味と舌触りで日本人の味覚に合うのでは？とモラレス博士



質問に答える講演者ら

「米国コーンアウトルック・シンポジウム2011」 スティーヴ・ヴァンザント氏の講演内容

オハイオ州、トウモロコシ生産者

何よりもまず、日本に再び訪れることができ大変光栄に思っているということを皆様方にお伝えしたいと思います。私が初めて日本を訪れたのは、「2007年高付加価値穀物会議」に参加した2007年2月のことです。2010年には、「2010年コーンアウトルック・シンポジウム」をお手伝いするために日本に参りました。再び日本を訪れ、私たち米国生産者が丹精込めて栽培しているトウモロコシを、貴国がいかに活用しているかをこの目で見る機会が得られたことを嬉しく思っています。



私の家族の農場は、トウモロコシ生産で世界的に知られる米国「コーンベルト」の東端に位置します。私たちの地域で主として栽培されている作物はトウモロコシと大豆です。主要作物ではありませんが、ソフトレッドウィンター小麦もこの地域で栽培されています。

ヴァンザント農場の耕作可能面積は 2,720 エーカー（約1,100ヘクタール）で、トウモロコシと大豆を栽培しています。私が初めて日本を訪れた2007年には、2,100エーカー（約850ヘクタール）の土地に分別流通の非遺伝子組み換えトウモロコシを栽培していました。2011年には、1,980 エーカー（約800ヘクタール）の土地にトウモロコシを作付する予定です。2011年に作付するトウモロコシはすべて、遺伝子組み換えのハイブリッドです。私たちの農場で作付けを予定しているトウモロコシの80%が Pioneer 社の遺伝子組み換え種子で、20%が Monsanto 社の遺伝子組み換え種子です。

2011年には地元の種子業者 Ebbert's Field Seeds社に引き渡す栽培用種子を生産するため、740エーカー（約300ヘクタール）の土地に大豆も作付けする予定です。

ヴァンザント農場 (Vanzant Farms, L.L.C.)



私たちの農場経営にとって家族はなくてはならない存在です。私の妻デビーは家族の世話と米国農務省の農場サービス局での仕事を両立させています。息子のシェーンは21歳で、穀物保管設備の整備を望む生産者に電気システム・ソリューションを提供するヴァンザント・アグリソリューション社を経営する一方、パデュー大学の地元キャンパスに通っています。娘婿のベンと娘のケリーはオハイオ州エングルウッドにある私たちの農場から70キロ東で暮らしています。ベンもオハイオ州トロイにあるホンダの部品を製造するH & P America でプロダクト・マネジャーを務めています。

私は農場を経営するだけでなく、Diversified Crop Insurance Services社のリスク管理スペシャリストでもあります。この職務では、トウモロコシおよび大豆の栽培面積が80,000エーカー（32,000ヘクタール）を超える数多くの農場経営者に対し、収穫保険やリスク管理のソリューションを提供する手助けをしています。不安定な穀物市場、不確実な気候、予見不能な世界情勢があいまって、私のこの仕事の日々の活動が興味深いものになっていることは間違いありません。

皆様にもお分かりのように、私たちの農場では経営の主眼をトウモロコシ栽培に置いています。トウモロコシはこの地域の土壌と環境に適しています。それだけでなく、この地域にはトウモロコシにふさわしい市場が数多くあるのです。そのひとつが私たちの農場から南105キロメートルのところにあるオハイオ州シンシナティの輸出ターミナルです。その他にも75キロメートルの範囲内に3つのエタノール工場があります。また、オハイオ州の中で最も家禽および豚の生産施設が密集している地域が農場から約75キロメートル北にあります。大豆を栽培するよりもトウモロコシを栽培する方がはるかに多くの投資を必要とすることは確かですが、純投資収益率という経済面から考えると、私たちの農場では大豆よりもトウモロコシに軍配が上がります。もっとも、大豆の収益性は高く、害虫や雑草の蔓延を低減する自然な手段にもなるため、当農場の輪作には大豆も取り入れています。



米国の生産者は、言うまでもなく私たちの最も古くからの、最大のトウモロコシ輸出市場である日本のためにトウモロコシを生産することに多大なる誇りを感じています。私たち個々の仕事や事業のためのみならず、更に重要なこととして、私たち両国の国民に資する安定的な貿易関係の構築に成功し、その関係を維持するために50年以上も協力しあってきました。今ここで、米国の2010年収穫トウモロコシの量と質について皆様にご報告できることを大変光栄に思っています。来たる2011年の米国トウモロコシに対する米国生産者

および日本のエンドユーザーの期待に関する考察についても若干触れるつもりです。



昨年のコーンアルトラック・シンポジウムに参加したとき、私は日本が2010市場年度に受け取る2009年収穫トウモロコシの品質が期待はずれとなった結果について、皆様に正確に報告することを最優先にしようと考えました。2009年収穫トウモロコシの品質低下の主たる原因として、2009年の生育期の天候が不順であったことをあげたことを、皆様はご記憶かもしれません。9月と10月の降雨量が過剰であったため、2009年トウモロコシには大規模な機械的乾燥が必要となっただけでなく、2009年トウモロコシにみられたマイコトキシン類、特にボミトキシンの発生が促進される結果となりました。現在日本に引き渡されている2010年収穫トウモロコシは、40年以上もの間トウモロコシを栽培してきた私が目にした中で、最高クラスのトウモロコシであるということをお伝えすることができ、嬉しく思っています。

私たちの農場の2010年収穫トウモロコシの品質にも非常に満足していますが、ここでは地元のエタノール工場が確認した2009年トウモロコシと2010年トウモロコシとの劇的な品質差について、皆様にお話するのが妥当ではないかと思えます。これからお話しする情報を提供して下さったCardinal Ethanol社のご厚意に感謝します。

「米国コーンアウトルック・シンポジウム2011」 スティーヴ・ヴァンザント氏の講演内容

トウモロコシ品質比較		
2009年収穫トウモロコシ対2010年収穫トウモロコシ		
資料提供: Cardinal Ethanol社 (インディアナ州ユニオンシティ)		
納期	2009年収穫トウモロコシ 2009年9月1日から 2010年8月31日	2010年収穫トウモロコシ 2010年9月1日から 2011年1月14日
購入量	39,040,736 ブッシェル	17,204,795 ブッシェル
平均水分率	14.30% (機械乾燥)	13.60% (自然乾燥)
平均B.C.F.M.	2.51%	1.80% <small>(実際のB.C.F.M.はこれよりも大幅に高い。生産者に手戻される被害チケット上で任意に少くとも1.0%は上乘せられる。)</small>
平均被害率	2.65%	1.70% <small>(実際の被害率はこれよりも大幅に高い。任意チケット上では任意に少くとも1.0%は上乘せられる。)</small>
容積重	55.2#/ブッシェル	58.7#/ブッシェル
マイコトキシン	ポミトキシン <small>(作物全体に存在するすべての毒素を検査)</small>	ポミトキシン <small>(ほとんどない。毎日の検作毎検査を継続)</small>

Cardinal Ethanol社は2009-2010市場年度中に3900万ブッシェルをわずかに上回る2009年収穫トウモロコシを処理し、2011年1月半ばまでに1700万ブッシェルを上回る2010年のトウモロコシを処理しています。事実上2009年トウモロコシにはすべて機械乾燥を加えており、2010年トウモロコシではほぼすべてが機械乾燥を必要としませんでした。

乾燥工程に伴う追加的ハンドリングによって、2009年では被害粒と異物 (B.C.F.M.) の平均含有率が2.51%となり、一方2010年トウモロコシでは1.8%と大幅に低下しました。ここでひとつ注意していただきたいのですが、チケットに記載される各測量値には少なくとも1.0%が自動的に上乘せられるため、実際のB.C.F.M.はこの1.8%よりもその分さらに大きく下回ります。2009年トウモロコシの被害粒の平均は2.65%で、現在までの2010年トウモロコシでは平均がわずかに1.70%になっています。繰り返しになりますが、測量チケットでは常に1.0%が記入されるので、実際の被害率はこれより大幅に低下します。本年は多くの積荷のB.C.F.M.および被害粒が1.0%を大幅に下回りましたが、実際に記録される最低値は1%であり、この値が必ず平均含有率に上乘せられます。彼らは「最高のトウモロコシ」を生産しているクレジット (およびプレミアム) を私たちに与えることに慎重なのです。

2010年トウモロコシの容積重も2009年トウモロコシよりも大きく改善しました。2009年トウモロコシの平均は1ブッシェル当たり55.2ポンドでしたが、2010年トウモロコシの現時点までの平均は1ブッシェル当たり58.7ポンドとなっています。今年は多くのトウモロコシの積荷の試験結果が1ブッシェル当たり60ポンドを超えています。2010年収穫トウモロコシの容積重の値が極端に高いため、U.S.D.A.が現在予測している米国トウモロコシの生産高を多少上回る結果となる可能性のあることを示唆しておきたいと思います。

ご存知のように、2009年トウモロコシでは主としてポミトキシンをはじめとするマイコトキシン類というやっかいな問題がありました。Cardinal Ethanol社では2009年のトウモロコシ積荷のすべてを検査し、ポミトキシン・レベルが相当程度にまで達していた多くのトラック積荷の受け取りを拒否しました。2010年トウモロコシについては、Cardinal Ethanol社に到着した積荷の中で、ポミトキシンが発見されたのはごくわずかであったことを報告できることを非常に嬉しく思います。Cardinal社の経営陣は、ポミトキシンがわずかに認められた積荷については、生産者が今年の出荷用にとっておいた2009年のトウモロコシの残りではないかと推測しています。現在、毎日無作為のポミトキシン検査を続けており、以前には取引のなかった生産者からの積荷は必ず検査を行うようにしていますが、検出可能なレベルのマイコトキシンが見つかることはあったとしても非常に稀です。



2010年収穫トウモロコシの品質は優れていましたが、米国の生産者は昨年秋にトウモロコシの収穫時に気付いた単収の低さについては、多少なりとも失望しています。2010年の単収の低下は様々な要因によるものだと考えています。皆様方には、昨年の生育期に2010年収穫トウモロコシが見舞われた重大な問題について報告したいと思います。

2010年の単収低下の原因となった重要な問題のひとつは、またしても、2009年の収穫期に私たちを襲った過剰な降雨です。じめついた農場の条件下での収穫作業によって、2009年の10月と11月の間に土壌がかなり締め固められる結果となりました。その後、この土壌圧縮が2010年収穫植物の根系の発達に悪影響を及ぼすことになったのです。単収を高めるために不可欠な、必要量の栄養成分を適切に吸い上げることができないと、根系の発達が阻害され、ほとんどの場合作物の単収が低下します。植物が必要としている栄養成分を植物の中に取り込むことができないと、例えどのように先端的な遺伝学的技術を用いた作物でも単収を上げることはできません。こうしたことが2010年生育期に多くのトウモロコシ生産業者に起こったのです。

機械乾燥が時間を取ったため、2009年トウモロコシには収穫の遅れも多発しました。収穫が遅れると、冬が始まる前に2009年トウモロコシを刈り取ることがほとんど不可能になるようなこともしばしば起こります。事実、冬期にトウモロコシを収穫した生産者もいますが、非常に残念な結果に終わりました。米国の生産者の大半は、前作物を収穫するとすぐに次の作物のための準備を開始します。首尾良くトウモロコシを栽培している生産者は、肥料や石灰を散布し、排水設備の保守、整備作業を行い、次の作物の生育期に先立ち秋期に必要なとされる開墾作業に力を尽くします。多くの場合、2009年から2010年の冬には生産者はこうした農場の準備作業を実施することができませんでした。2010年収穫トウモロコシの単収は、こうした悪条件によるマイナスの影響を受けることになりました。

米国の2010年収穫トウモロコシの単収の低下に影響を及ぼした問題のいくつかを取り上げてお話ししました。現在、2010年の最終的な単収が記録され、その量については十分に周知されており、今後調整があるとしてもわずかな調整になります。今は2011年の2月ですから、私たちは来るべき2011年収穫トウモロコシに期待し、ここでは次の生育期に生じる可能性のある事柄についていくつか示唆するのが適切かと思います。

すでにお話したように、2009年の秋の準備作業をほとんど行うことができなかつたため、2010年収穫トウモロコシは厳しいスタートをきらざるを得ませんでした。2010年がそうであったように、多くの場合、厳しいスタートをきった作物を完全に回復させることはできません。しかし2010年の秋には、生産者は記録的なペースで肥料を施し、排水設備を整備し、秋期の耕起作業を行いました。私たちの農場では、リン、カリ、石灰はすべて散布を終了し、予備的耕起作業もすべて済ませました。農場の倉庫には窒素や初期肥料のすべてが整っており、さらに2011年春の農作業用のディーゼル燃料も十分に蓄えています。種子もすべて購入し、今月には配達されることになっています。要するに、私がトウモロコシ栽培に従事してきたこれまでの40年と同じように、作付の準備が十分に整っているということです。

現在、米国のコーンベルト地域のトウモロコシ生産業者の大半は、皆様方にお話ししたように、2011年収穫トウモロコシのための作業の準備を整えています。世界需要だけでなく、必要とされるこうした投入物の大部分がすでに前もって施用されているため、米国における肥料の在庫は逼迫しています。排水用の土管も購入するのが少し難しくなっています。排水設備の整備は単収を改善する上で主要な投資であるため、これは良いニュースです。生産者は今後の単収を上げるため、積極的に利益の再投資を行っているのです！

「米国コーンアウトルック・シンポジウム2011」 スティーヴ・ヴァンザント氏の講演内容

過去4年間に収穫された作物トップ5 2011年に予想されること					
出典: 2007-2010 USDA, 2011 予測 Diversified Services社					
コモディティ	2007	2008	2009	2010	2011予測?
トウモロコシ	93.5	86	86.5	88.2	91.5
大豆	64.7	75.7	77.5	77.7	78
小麦	60.5	63.2	59.1	53.6	57.6
綿	10.8	9.5	9.1	11	12
ソルガム	7.7	8.3	6.6	5.4	5
合計	237.2	242.7	238.8	235.9	244.1

2011年生育期の米国での各作物への農地面積の割り当てについては、この冬世界中で議論的となっています。ほとんどの生産者ができる限り輪作を維持しようという強い意志を持っている、ということを知ることが非常に大切なことです。こうした輪作の中で最も強力な組み合わせが2年間のトウモロコシ-大豆の輪作です。こうした栽培慣習によって2011年の作物組み合わせに関する調整はごくわずかであると考えられますが、供給が逼迫している状況では、1エーカーの差も重要なのです！2011年はどのような状態になるのかを見通すための一助として、過去4年間の作物面積の割り当てを調べてみることは理にかなっていると思います。ほぼすべての作物の商品価格が歴史的レベルとまでは言えないにしても、高レベルにあるため、こうした作物がこの春出揃うまでは、農地面積の戦いが大きな問題となりそうです。それでは米国トップ5作物をざっと見ていきましょう。

【トウモロコシ】 需要の伸びに対応して、トウモロコシの作付面積は2007年にピークを迎えました。ご覧のように、2007年のトウモロコシ面積の増加は大豆面積の犠牲の上に成り立っていました。2011年になると、大豆は2007年よりもずっと競争力のある価格となっています。純利益という点では大豆よりもトウモロコシの方が好まれますが、最近の肥料価格上昇以前に投入肥料を確保している場合にはこれが特に顕著です。先にお話したように、多くの生産者がすでに施肥を含めて農場の準備をかなり進めており、従って多

くの場合、こうした投入材料の購入は終わっていると考えられます。このことは2011年のトウモロコシ作付の増加を示唆しますが、2007年に経験した9,350万エーカー増ほどの規模にはならないでしょう。

【大豆】 世界規模のタンパク質需要のお陰で、2011年には大豆は間違いなく価格競争力を持ちます。ただし、大豆生産における遺伝学的技術が進んでいることは確かでも、大豆の単収の増加はトウモロコシほど劇的ではないということ指摘することが重要かと思えます。生産面での問題、主として突然死症候群 (S.D.S.) および白カビの問題も大豆の単収を縮小させる原因となっています。生産者が2011年の大豆の作付に気をもむことは間違いはありませんが、コーンベルト地域の農場の多くで、トウモロコシ栽培の方にわずかに比重が傾くでしょう。

【小麦】 小麦には最も大きな変化が起きており、面積はトウモロコシと大豆に奪われるでしょう。米国の小麦は平均以下の状況で、最も顕著なのがカンザス州ですが、その他の州でも同様です。現在米国の作物保険では、多くの生産者が限界条件下にある小麦農地に対して、今年の春に補償金の一部受け取ることができる手段を提供しています。この補償金が支払われると、限界小麦作物生産者は小麦作付の費用を回収し、失敗した小麦農地にトウモロコシや大豆といった春播き作物を作付けすることができます。小麦の商品価格が高いということは、間違いなく1エーカー当たりの生産量が頂点に達していることを示しています。現在冬小麦を作付けしている農地のうちの相当面積で、今年の夏はトウモロコシまたは大豆が栽培されることになるだろうと言っても差し支えないと思います。

【綿】 生産者の1人として私は、2011年の米国の綿の作付面積がどのようになるかという問題に、穀物業界は時間を少し費やし過ぎていると考えています。確かに、綿の価格はほぼ毎日といって過言ではないほどに価格が上昇しています。綿を栽培することのできる

農場を持つ生産者は、あらゆる機会を捉えて綿を栽培するでしょう。問題は、2011年にどれほどの数の生産者が実際に綿を栽培することができるかということです。綿の生産には非常に高価な装置を使用する必要があり、とりわけ綿摘み機はこの作物のみに必要とされるもので、他の作物に使うことはできません。2011年まで、綿はトウモロコシ、大豆、小麦に対する優位性を持つ作物ではなかったため、かつての綿生産者の多くがずっと以前に綿のための装置をブラジルをはじめとする諸外国の生産者らに売却してしまっています。綿用装置の供給が不足し、また、トウモロコシや大豆には十分な価格競争力があるため、綿の栽培に適した地域の生産者の多くがトウモロコシと大豆の栽培をこのまま続けることになるでしょう。2011年の綿の作付面積は、2010年の作付面積を大幅に上回ることはないと言っても差し支えないと考えます。

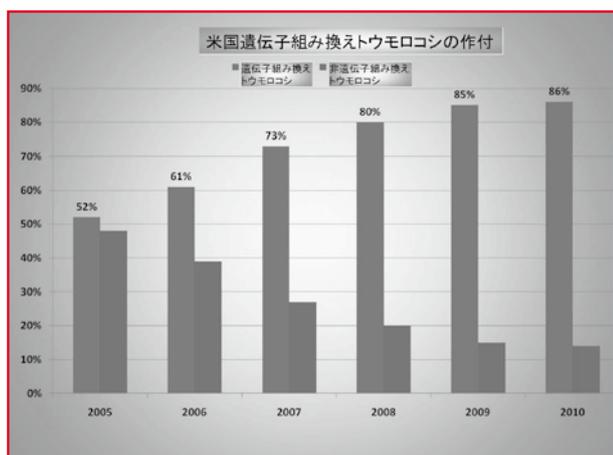
【ソルガム】 ソルガムの面積は恐らく2011年も縮小傾向を続けることとなります。ソルガムはもともと継続してトウモロコシを栽培するために必要とされる十分な降雨量に恵まれていない地域での栽培に適した作物です。しかしトウモロコシに関する遺伝学上の技術がこの状況を一変しようとしています。最新のハイブリッド・トウモロコシはこれまでよりも水を効果的に利用することができるため、こうしたハイブリッド種は、かつてはソルガムの栽培に最も適していると考えられていた地域にまで、ゆっくりとトウモロコシ栽培面積を拡大しつつあります。



米国の豊かな土地資源では、今お話しした5大作物以外の数多くの作物も栽培されています。お気づきかも知れませんが、先ほどの表にあるように、生産者がこの5大作物に割り当てる総農地面積は年度によって大きく変化します。その範囲は2010年の作付面積である235.9百万エーカーから、2011年の予測面積の244.1百万エーカーにまで及びます。8.2百万エーカーというのは、こうした主要作物の栽培に切り換えられる面積としては大きな数字です！ 2008年には5大作物の確定面積は242.7百万エーカーあったわけですから、この数字は現実的な数字と言えます。土地所有者と農場サービス局は保全回復プログラムのリース契約を結んでいます。毎年、満期を迎える土地が出てきます。満期を迎えた土地の所有者の多くはこのリース契約の更新を望まず、作物を栽培する方を選びます。こうして追加される土地はトウモロコシにとって最も質の高い農地ではないこともありますが、それでもトウモロコシ、大豆、その他の作物が栽培され、間違いなく作付したコモディティの量に貢献することになります。

米国の生産者は積極的に新しい装置に再投資し、劇的な進歩を遂げている作付技術や収穫技術を十分に活用しています。大型で信頼性の高い装置を使用することによって、今では農地作業の「到来好機」をこれまで以上に活用することができるようになりました。2009年と2010年の春に、米国のすべてのトウモロコシの50%以上が7日間で作付することができたのは何も偶然のことではありません。その時がくれば、2011年のトウモロコシも同様の結果を出すことができると確信しています。

「米国コーンアウトルック・シンポジウム2011」 スティーヴ・ヴァンザント氏の講演内容



米国の生産者は積極的に新しい装置に再投資し、劇的な進歩を遂げている作付技術や収穫技術を十分に活用しています。大型で信頼性の高い装置を使用することによって、今では農地作業の「到来好機」をこれまで以上に活用することができるようになりました。2009年と2010年の春に、米国のすべてのトウモロコシの50%以上が7日間で作付することができたのは何も偶然のことではありません。その時がくれば、2011年のトウモロコシも同様の結果を出すことができると確信しています。

米国のトウモロコシ生産者は、自然が私たちに栽培を許した量、質ともに最高のトウモロコシを栽培していることに誇りを持っています。私たちの供給業者と顧客との長期的かつ安定的なビジネス関係の維持にも重きを置き、国内の顧客と輸出先の顧客双方に十分量のトウモロコシを供給し続けるつもりです。当然のことながら、日本は米国トウモロコシにとって最も古くからの、最大の輸出顧客です。2011年には私たちの能力の限りを尽くして穀物保管施設を満たし、日本のニーズに応じて日本に向けての出荷プロセスを開始します！！この場を借りて、個人的に、そして米国トウモロコシ生産者を代表して、皆様の変わらぬご愛顧に感謝いたします。私たちはこの長期的な関係を認識し、高く評価しているだけでなく、皆様のビジネスを最優先に考えています。米国の生産者は、何よりも貴国にとって安定した信頼性の高いトウモロコシ供給元であり続けることに焦点をあわせ、実践する所存です。

ご清聴大変ありがとうございました。



2010年12月DDGSセミナー

2010年12月6日(鹿児島市)、7日(東京)にDDGSの需給・流通と家禽での利用に焦点を当てた標記セミナーを開催した。

鹿児島会場では、鹿児島県農政部畜産課、樋渡隆氏より開会の挨拶があり、鹿児島県、宮崎県、福岡県などからの飼料・畜産関係者が参加した。

「養鶏用飼料としてのDDGS」の演題の下では、DDGSの一般成分、CP、粗脂肪の変動、アミノ酸組成、色調と鶏におけるアミノ酸利用率、リンの利用性、キサントフィル含量などの説明、および、国内外での採卵鶏やブロイラーでの給与試験の報告がなされた。海外で行われた最近の試験の中には、採卵鶏用飼料にDDGSを20%配合して、産卵成績に悪影響は及ぼさず、しかも鶏舎におけるアンモニアと硫化水素の放出量を減少することができた、との報告もあり、栄養面のみならず環境面でのメリットについても期待されている。

■アメリカ穀物協会DDGSセミナー(養鶏) 議題:

開会の挨拶 鹿児島会場:鹿児島県農政部畜産課中小家畜係/樋渡 隆氏

東京会場:アメリカ穀物協会 日本事務所代表/浜本 哲郎

DDGS需給・輸送・流通について

米国CHS社 国際マーチャンドライザー/マット・フィッツサム氏

養鶏用飼料としてのDDGS

鹿児島会場:社団法人 日本科学飼料協会 事務局長・技術部長/米持 千里氏

東京会場:日本獣医生命科学大学/木村 信熙教授

質疑応答・閉会



また、アメリカ穀物協会は、同9日に長野県水産試験場にて開催された養殖魚飼料に関するセミナーを、全国養鱒振興協会と共催し、「DDGSの流通・輸送」および「日本でのDDGS利用と高たんぱくDDGS」について講演した。

■養魚飼料に関するセミナー 議題:

開会挨拶 全国養鱒振興協会 会長理事/小堀 彰彦氏

「DDGS(トウモロコシ蒸留粕)の流通・輸送について」

米国CHS社 国際マーチャンドライザー/マット・フィッツサム氏

「日本でのDDGS 利用と高たんぱくDDGS について」

アメリカ穀物協会日本事務所副代表/坂下 洋子

「養魚飼料へのDDGS 利用の背景」

全国養鱒振興協会 会長理事/小堀 彰彦氏

「高タンパクDDGS のニジマスに対する給餌試験」

愛知県淡水養殖漁業協同組合 常務理事/米花 晃雄氏

講評

全国養鱒技術協議会 運営委員長/細江 昭氏



DDGS ユーザーハンドブック (第2版)ができました

アメリカ穀物協会のワシントンDC本部がとりまとめたDDGS ユーザーハンドブック(第2版)和訳が完成し、下記ホームページでダウンロード出来る他、印刷物(写真)をご希望の方に配布しています。

ウェブサイト

<http://www.grainsjp.org/2010/12/ddgs2.html>

印刷物を希望される方は、次へご連絡ください。アメリカ穀物協会(電話: 03-3505-0601 FAX:03-3505-0670)



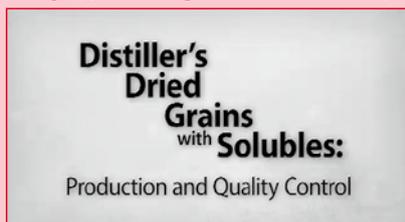
DDGSに関する 新しいビデオが出来ました

アメリカ穀物協会ワシントンDC本部は、DDGSの製造、出荷、輸送、品質検査などに関して、映像で詳しく説明したビデオを制作しました。日本語によるナレーション付きも制作する予定です。

随時ご紹介してゆきたいと考えていますが、次のサイトでも見ることが出来ます。

ウェブサイト

<http://www.youtube.com/user/USGrainsCouncil>



協会の活動紹介(2010年12月～2011年2月)

12
月

12月6-7日
6日・鹿児島市城山ホテルにて、7日・東京
アメリカンクラブ(TAC)にてDDGSワーク
ショップを開催



12月9日
長野県水産試験場にて養殖魚飼料としての
DDGSセミナーを共催



長野県水産試験場でのセミナーでは給与試験の鱒試食も行われた

2
月

2月14-15日
14日大阪にて、15日東京に
てコーンアウトLOOK・シンポ
ジウムを開催



東京でのシンポジウムは、麻布のリニューアルした東京アメリカンクラブ(TAC)で開催された



3
月



アメリカ穀物協会「年次報告書 2010」が出来ました(英文)。詳しくは次のサイトへ

http://www.grainsjp.org/10USGC-010_AnnualRpt_1C.pdf

.....
アメリカ穀物協会は、米国産大麦、トウモロコシ、ソルガム、およびその加工品の国際市場の創出と拡大を目的とした、アグリビジネス企業と生産者をメンバーとする民間の非営利団体です。当協会は、ワシントンD.C.に本部を、国外に10の事務所を置き、50を超える国々のプログラムを管理しています。当協会は、協会会員である生産者とアグリビジネス関係者、米国農務省の支援を受けています。
.....

編集：坂下

本誌「NETWORK」のバックナンバーをインターネットで見ることができます。

<http://www2.gol.com/users/grainsjp>

**ネットワークに関するご意見、
ご感想をお寄せ下さい。**

U.S. GRAINS COUNCIL **アメリカ穀物協会**

〒107-0052 東京都港区赤坂1丁目6番19号
KY溜池ビル4階

Tel: 03-3505-0601 Fax: 03-3505-0670

E-mail: grainsjp@gol.com

本部ホームページ(英語) : <http://www.grains.org>
日本事務所ホームページ(日本語) : <http://grainsjp.org/>